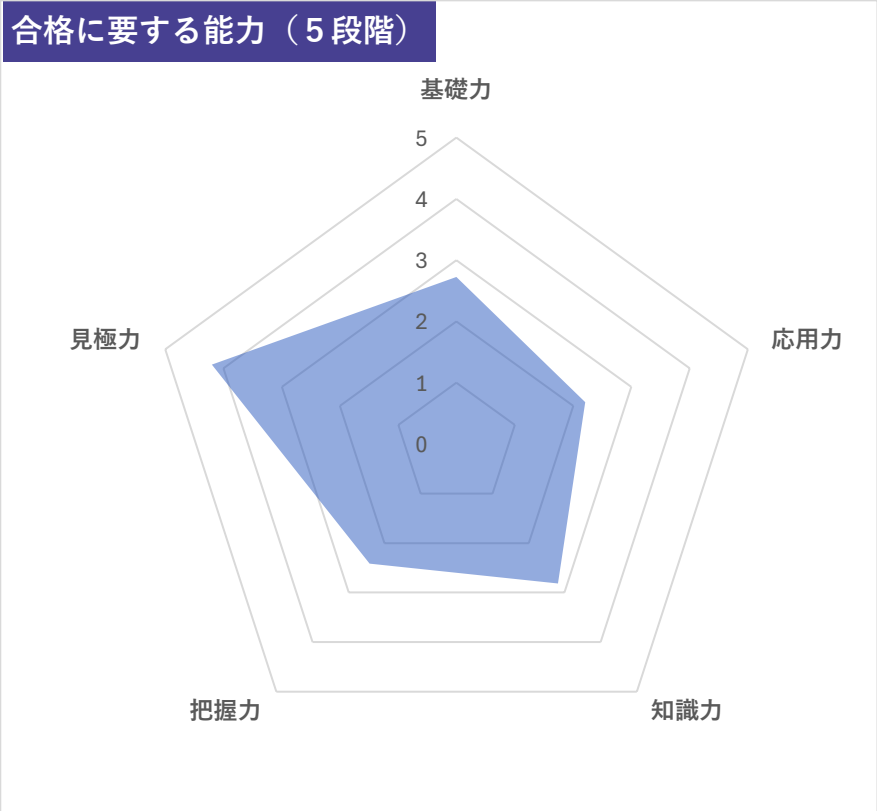


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2 科120分)	大問数	全 3 問
------	------------------	-----	-------



合格に要する能力（5段階）		
基礎力	2.5	原理についての理解
応用力	2.0	演習経験による慣れ
知識力	2.6	用語を正確に覚えているか
把握力	2.2	臨機応変に状況を把握する力
見極力	4.0	解きやすい問題を選択する力

特記事項	第 1 問，第 3 問はそれぞれ 3 つの独立した問題で構成される。理由論述， グラフ描図の設問が多い。
------	--

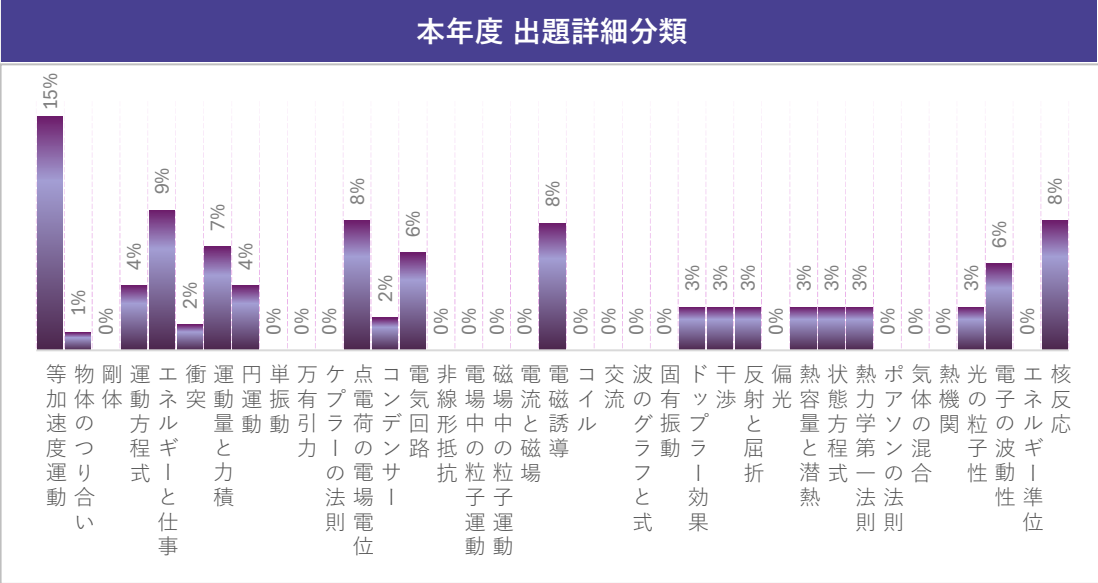
総合評価				
難度	2.6	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）
分量	71分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや多い	72%
				高い正答率を要する

入試の特徴と対策	<div>▶ テーマ性より網羅性と知識バランスを重視した試験となっている。頭の切り替えが鍵となる。</div> <div>▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。</div> <div>▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。</div>
入試から見る 大学が求める学生像	導出過程の記述，理由の論述， グラフ描図が求められる設問が複数ある。与えられた問題に対して計算して解答を出す処理能力は前提として，言葉や図を用いて表現する力が重視されている。臨床医として問題を解決する能力に加え， 人にそれを伝達する能力を持つ学生が求められている。

出題分野	
力学	42%
電磁気学	25%
波動	8%
熱力学	8%
原子物理	17%

本年度 解答形式	
答えのみ記述	58%
選択肢	33%
論述	8%

本年度出題テーマ一覧	
I - A	放物運動とv-tグラフ
I - B	ばねの弾性力による等速円運動
I - C	曲面上面を持つ台とその上を運動する物体
II	小問集合
III - A	点電荷による電場と電位
III - B	直流回路
III - C	導体棒の電磁誘導



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題あり	理由記述あり	数値計算あり